

青少年教育指導者等の研修事業

「自然体験活動指導者養成事業 補助指導者養成研修会（訪問講座）」

【主催】 国立阿蘇青少年交流の家

【後援】 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会
阿蘇市教育委員会

【期間】 平成22年 8 月 4 日(水), 平成22年11月27日(土)

【会場】 阿蘇市立宮地小学校, 熊本大学全学教育棟

【参加者】 総計119名

(8 月 4 日 阿蘇市立宮地小学校)

小学校の教職員22名, 放課後子ども教室指導員 2 名,
教育委員会職員 1 名, P T A 役員 3 名, 一般15名 合計43名

内訳【性 別】 男性29名, 女性14名

【郡市内訳】 阿蘇郡市40名, 熊本市 3 名,

(11月27日 熊本大学全学教育棟)

大学生73名, 幼稚園教諭 1 名, 一般 2 名 合計76名

内訳【性 別】 男性40名, 女性36名

【県別内訳】 熊本県74名 (内熊本市73名, 山都町 1 名), 福岡県 2 名

【講師】 熊本大学教育学部 教授 吉田 道雄 氏

国立阿蘇青少年交流の家 企画指導専門職



アイスブレイキングの演習

1 趣 旨

「小学校の 1 週間の自然体験活動」において, 教育効果の高い自然体験活動や生活体験活動を提供するために, 活動時の補助指導や活動の様子の把握と助言などを行う補助指導者を養成するために, 本事業を実施した。

2 目 標

- (1) 子どもたちに自然体験活動が必要であることがわかる。
- (2) 自然体験活動の基礎的な知識・技術を身につけることができる。
- (3) 安全管理の重要性や危険予知の在り方がわかる。



グループワークの様子

3 事業展開

(1) 研修プログラム（参考として宮地小学校で行った研修プログラムを掲載）

日 程	午 前	午 後
8 月 4 日 (土)	○開会行事 ○講義・演習（1 時間） 自然体験活動の技術 「アイスブレイキング・PA系ゲーム」 ○講義（1.5時間） 教育課程と体験活動の関連性	○講義（1.5時間） 学校教育における体験活動の意義 ○講義・演習（1 時間） 安全管理「危険予知トレーニング」

(2) 目標達成のための手立て

① 熊本大学及び阿蘇市立宮地小学校との連携

1・2 回目とも、「学校教育における体験活動の意義」については、熊本大学教育学部の教授を講師とし、指導を依頼した。

体験活動をととした人間関係づくりやコミュニケーションの在り方等について、専門的な立場から話をしてもらい、研修が深められるようにした。

1 回目の研修会には、阿蘇の地域の方々が参加しやすい阿蘇市立宮地小学校にて実施し、2 回目の研修会については、学生が参加しやすい熊本市内の熊本大学全学教育棟で実施した。

参加者の募集についても阿蘇市立宮地小学校や熊本大学教育学部と連携して行い、1 回目には阿蘇市郡の小学校の先生方をはじめ43名、2 回目には熊本大学教育学部の学生をはじめ76名の参加者を得ることができた。



熊本大学での講義の様子

② 「何をする」という視点ではなく、「何のために」という視点の重視

「体験活動と教育課程の関連性」や「自然体験活動の技術（アイスブレイキング・PA系ゲーム）」において、アクティビティやゲームについて考えさせる際、「何のためにするのか」という視点を常に意識させるようにした。

ただ単に楽しいだけのアクティビティやゲームの設定・実施に終始することなく、子どもたちが到達すべき目標はいったい何か、活動のねらいは何か、ということを考えた上で、アクティビティやゲームの設定・実施にあたるように指導した。また、それを「体験活動と教育課程の関連性」や「自然体験活動の技術（アイスブレイキング・PA系ゲーム）」におけるグループワークや演習の振り返りの視点にした。



アイスブレイキングの演習

③ 企画指導専門職による指導

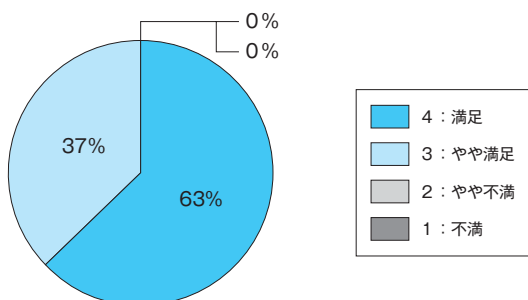
本研修会にあたっては、1・2 回目とも「体験活動と教育課程の関連性」と「自然体験活動の技術（アイスブレイキング・PA系ゲーム）」、「安全管理」に関して、企画指導専門職2 名が分担をして、指導・助言を行った。

企画指導専門職の知識や経験を生かすとともに、専門職自身が本研修会を指導者としての力量を高めるきっかけにし、参加者と一体となった事業の展開を図るようにした。

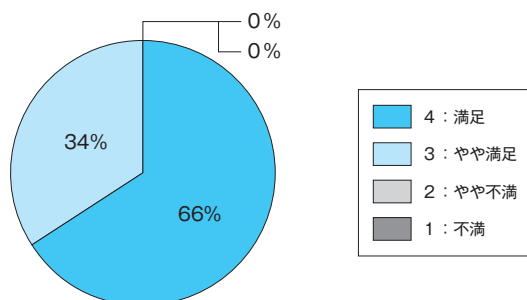
4 結 果

アンケート調査の結果は次のとおりである。

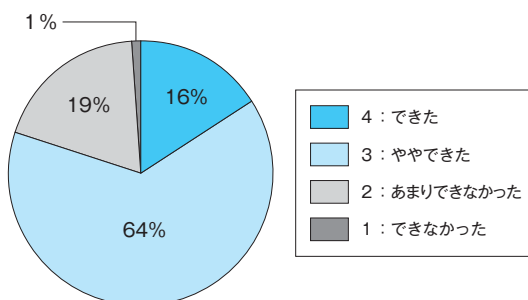
(1) 研修全体をととしてどうでしたか。



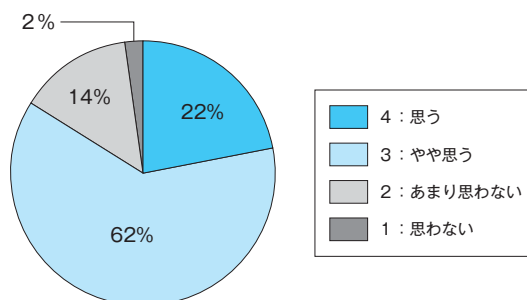
(2) 研修の内容はどうでしたか。



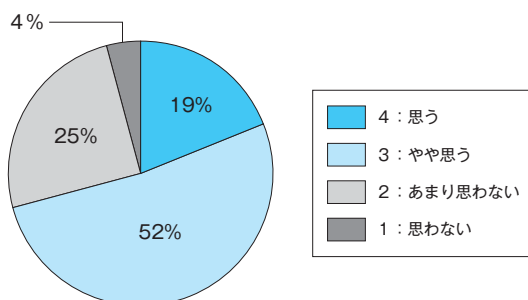
(3) 小学校が行う1週間の自然体験活動の意義を理解できましたか。



(4) 小学校が行う1週間の自然体験活動への補助指導をしてみたいと思いますか。



(5) 小学校が行う1週間の自然体験活動の企画・運営をしてみたいと思いますか。



【宮地小学校での参加者の声（アンケート記述）】

- 自然体験活動が必要なことを痛感した。今回の研修内容を是非生かしていきたい。
- 自分は60代であるが、これからでも何か人のためになることができたらいと思った。
- 学校以外の方々とも交流し、様々な意見や考えを知ることができてよかった。
- 参加者が教員と一般の方だったので、一般の方の理解を深めるためには、「教育課程と体験活動の関連性」の内容については、もう少し簡単でもよかった。

【熊本大学での参加者の声（アンケート記述）】

- 自然体験活動に関する様々な内容を学ぶことができた。今後は是非補助指導者として活動に参加したい。
- 「学校教育における体験活動の意義」においても、コミュニケーションの大切さなど、新たなものの見方を養うことができた。
- アイスブレイキングや危険予知トレーニングなどの内容を、演習やグループワークをとおして楽しくしっかりと学ぶことができた。
- 机と椅子が一体型になった講義室で研修会が行われたが、動きやすい講義室であれば、演習やグループワークにより活動的に参加できるといった。

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① 2回の研修会を合わせると119名の参加者があり、広く自然体験活動の意義等の理解を図ることができたと同時に、多くの自然体験活動補助指導者を養成することができた。
- ② アンケート結果によると、参加者の意識がもともと高かったこともあり、事業全般についての満足度は高かった。大学教授と本施設企画指導専門職の講義・演習が分かりやすかったことが参加者のアンケートから読み取れた。講義・演習が全般的に参加者の実態に即して分かりやすい内容であったと考える。（グラフ1～2、アンケート記述）
- ③ 「教育課程と体験活動の関連性」や「安全管理」における演習では、グループごとに話し合いながらアクティビティを企画し、予想される危険について意見を出し合った。また、その内容を、それぞれ紙にまとめて発表するような形式をとった。このようなグループワークをとおして、参加者一人一人が数多く発言し、主体的に研修に参加する姿が見られた。参加者からもグループでの意見交換が参考になり、有意義だったとの意見が聞かれた。（グラフ2、アンケート記述）
- ④ 「体験活動と教育課程の関連性」や「自然体験活動の技術（アイスブレイキング・PA系ゲーム）」において、アクティビティやゲームについて考えさせる際、「何のためにするのか」という視点を常に意識させるようにした。それらにより、演習において参加者たちが、子どもたちの到達すべき目標を考えながら、アクティビティの設定をする姿が見られた。（グラフ3、アンケート記述）
- ⑤ 本研修会にあたっては、のべ4名の本施設企画指導専門職が、「教育課程と体験活動の関連性」と「安全管理」、「自然体験活動の技術」の指導にあたった。このことは、本施設企画指導専門職の指導力を高める一つの機会にもなった。



(2) 課 題

- ① 参加者のほとんどが阿蘇市郡の方々や熊本大学の学生であった。今後はさらに広域的に参加者を集めるとともに、他の大学からも参加者が得られるようにしながら、自然体験活動を推進し、普及していく必要がある。
- ② 参加者の自然体験活動に関する知識や経験等の個人差は小さくないため、研修内容や指導・支援の在り方には今後も十分な配慮をし、さらに研修を充実させる必要がある。（アンケート記述）

主任企画指導専門職 福留 隆二